

## プライオリティールール

### 【4 or 3 メンプライオリティー】

- ・ ヒート開始後、プライマリーテイクオフゾーン(以下 PTZ)に到着した時点では、プライオリティーは発生しない。
- ・ PTZ とは、波がブレイクするテイクオフゾーンであり、プライオリティージャッジが目視で確認し、設定される。一日を通して、潮の干満などにより、波がブレイクする場所が変化する場合は、状況に合わせて、プライオリティージャッジにより、PTZ が移動される。
- ・ プライオリティージャッジはプライオリティーが施行されている間に、選手が着用しているゼッケンカラーに対応したカラー表示システムを使って、海の中に居る選手に優先順位を示すよう判定を行う。
- ・ ヒート開始後、誰もライディングを行っていない、プライオリティーが発生していない状態の場合、従来のインターフェアレンスルールが適用される。
- ・ 最初にライディングをして、PTZに戻った選手に対して、4 番目(3 番目)のプライオリティーを与える。次にライディングをした選手が PTZに戻った時点で、その選手に 4 番目(3 番目)のプライオリティーが与えられ、それまで 4 番目(3 番目)のプライオリティーだった選手が 3 番目(2 番目)に繰り上がる。PTZに残った選手もライディングを開始し、PTZに戻ると、同様にプライオリティーが繰り上がっていく。
- ・ そのプライオリティーを持った選手が、波に乗る又は、乗る姿勢を取ってパドルをし、失敗した場合でもプライオリティーを失う。
- ・ 2 人の選手が同時にライディングし、同時に PTZに戻った場合、先にプルアウト又は、ライディングを辞めた選手に、上のプライオリティーが与えられる。
- ・ 高い優先順位を持っている選手が、意図的に PTZ で他の選手が波を捉える行為を妨害する位置に留まる場合、プライオリティーを失う事がありうる。
- ・ 多数のジャッジが妨害を気付かなかった場合、ヘッドジャッジの判断だけで、妨害をコールされる事もある。

- ・プライオリティールールが施行されている状況下では、選手自身が責任を持って、システムの表示、及び状況を確認する義務がある。

- ・ヒート開始後、プライオリティージャッジにより、決められた優先順位に従わなければならない。

#### 【4 or 3 メンプライオリティークサ害】

- ・高い優先順位を持っている選手に対して妨害した場合、ベスト2ウェイブの2nd ベストウェイブを全てカットされ、ベスト1ウェイブのみのカウントとなる。

- ・プライオリティを持っていない選手に対して妨害した場合、従来通り、ベスト2ウェイブが1/2 となり、カウントされる。

- ・妨害された選手はヒート時間中にエクストラウェイブが与えられる。

- ・ダブルインターフェアレンスの場合、エクストラウェイブは与えられない。

- ・同じヒートで妨害を2 回行った選手は、直ちに競技エリアから出なければならない。

- ①2 回の妨害共、プライオリティを持たない選手に行った場合、ベスト1ウェイブのカウントになる。

- ②1 回目の妨害がプライオリティを持たない選手に行き、もう1 回の妨害が、その選手より上のプライオリティを持った選手に行った場合、ベストウェイブが1/2 となり、2nd ベストウェイブがゼロになる。

- ③2 回の妨害が、両方、その選手より上のプライオリティを持った選手に行った場合、失格となる。

- ・妨害された選手が妨害を行った選手よりプライオリティが下の場合、ノンプライオリティークサ害となる。妨害した選手は2nd ベストウェイブが1/2 となる。

この、4 or 3 メンプライオリティークサ害は2018 ISA ルールブックを抜粋して訳したものです。

NSA の試合運営上で不足している部分があった場合は、オリジナルの ISA RULE BOOK を参照し、NSA ルールに則り、プライオリティージャッジの見解によって判断されます。

どのような状況においても、もしプライオリティ・システムが機能していない事により、議論が起きた場合は、NSA ルールに則り、ヘッドジャッジ、コンテスト・ディレクターにより仲裁されます。